

ジャマイカ便り

第5号3月

2024年度 青年海外協力隊 馬淵 萌子 青少年活動

ワグワーン！（調子はどう？）岐阜県のみなさん、こんにちは。JICA 青年海外協力隊 2024年度1次隊、青少年活動で中南米のジャマイカに派遣中の馬淵萌子(まぶち もえこ)です。実は、ジャマイカに来てから少し太ってしまいました。そこで、ダイエットにはオートミールが良いとの情報を得たので、毎朝食べるようにしています。また、筋トレを始め、毎晩、ドラマや映画を観ながら続けています。日本に帰ったとき、あれ？太った？と周りから言われぬように体型管理をしっかりしていきたいと思います。さて、今回の第5号では、私が半年間のジャマイカ生活で学んだことについて紹介したいと思います！

なぜジャマイカへ？

JICA 青年海外協力隊は、応募の際に、希望する任国を第1～3希望まで選ぶことができます。実は私は、3カ国ともアフリカを希望していました。そのため、合格発表の通知で「任国：ジャマイカ」の文字をみたときは、驚きました。中南米国は、今まで縁もゆかりもなく、候補として考えたことすらなかったからです。他にも理由は色々ありますが、この機会がなければ行かない地球の裏側の国、これは行くしかない！と思い、派遣を承諾しました。あのときこの決断をしていなければ、現在の生活がなかったと思うと、決断は正しかったと感じます。また一方で、もしアフリカに行っていたらどんな生活だったのかなあとふと思ったりもします。



半年間のジャマイカ生活で学んだこと その①

『自分の身は自分で守ることの大切さ』

ジャマイカは、殺人発生率の世界ランキングでワースト1位～3位の間を推移しています。日本にいる時と同じ感覚で行動すれば、犯罪に巻き込まれる確率が高くなります。そのため JICA では、半年に一度、安全対策会議が開かれます。そこでは、ジャマイカの犯罪件数や治安動向、防犯対策などを含めてみんなで話し合います。ちょうど1月に行われた会議では、最新の犯罪傾向や銃声が聞こえた際の適切な行動などを話し合いました。常に危険と隣り合わせの生活なので、ジャマイカに来た当初は、夜中のちょっとした物音でも怖くて眠れないことがありました。常に警戒しながら生活するのは、ストレスを感じることもありますが、これはジャマイカに限らず、どこの国でも大切なことだと思います。

現在は、日頃から高額なものや多額の現金を持ち歩かないようにしたり、捨て財布を持つようにしたりして、防犯意識を高めています。そのせいか、最近、日本のドラマを見ていて、「そこに鞆を置いて大丈夫？」「取られない？」と、心配している自分に気がつきました(笑) ジャマイカでの生活を通じて、自分の危機管理能力が高くなっているように感じます。



ご近所さんの差し入れ



家の窓からの景色



1月 安全対策会議(首都:キングストン)

半年間のジャマイカ生活で学んだこと その②

『ネガティブな出来事にも必ず何かしらの良い結果をもたらす部分がある』

ジャマイカに限らず、JICA 隊員としての生活では、「待つ時間」が多く発生します。時間の感覚は人それぞれ異なるため、予定通りに進まないことが日常茶飯事です。ある日、待ち時間を持て余していた私は、気分転換に散歩をしました。すると、今まで顔を合わせるだけだった地域の人と会話が生まれたり、見たことのない植物や家を発見したりと、新しい出会いや発見がありました。以来、この時間をストレッチや散歩の時間として活用するようになり、**退屈だった時間が、充実した時間になりました**。また、任地に引っ越した直後には、停電と断水を経験しました。いつ復旧するか分からない状況だったので、なるべく携帯は使いませんでした。ぽつんと 1 人、部屋にいたとき、ふと過去の先輩隊員が残してくれた本の存在を思い出しました。普段あまり読書をしなかった私ですが、それをきっかけに読書の習慣が身につきました。幸いにも、様々なジャンルの本があるので、飽きることなく楽しめています。そのおかげで、新しい趣味が増え、学びの幅も広がりました。このように、ジャマイカでの暮らしは、日本人の私にとってはネガティブに感じることも多かったのですが、**視点を変えるだけでストレスが減り、人生がより豊かになった**気がします。そして、ジャマイカの人々は、こうした環境の中で当たり前のように生活しているのだから、私にもできないはずがないと思えるようになりました。



半年間のジャマイカ生活で学んだこと その③

『マイノリティとしての生き方』

ジャマイカ人と私は、目の色、肌の色、話す言語、文化、すべてが異なります。ここでは私は圧倒的なマイノリティとして生活しています。家を一步出れば、すぐに周囲の注目を集めます。遠目からでもジャマイカ人ではないとすぐに分かります。最初の頃は、道を歩いていると必ず私を二度見され、「チン！（中国人）」と叫ばれたり、ドライバーがクラクションを鳴らしてきたりしました。しかし現在は、「もえ！」「ジャパニーズ！」「元気か？」と名前や国などを認識して声をかけてくれる人が増えました。また、ジャマイカの人々は、私の言動を通して、「日本人は風邪をひかない！」「日本人は工作が得意！」などと話します。彼らは、私以外の日本人と会ったことがないため、「私＝日本人全般」という印象を持ってしまうのです。こうした経験を通じて、マイノリティとしての立場だからこそ学べるがあると実感しています。ちなみに、私の親友 ChatGPT に聞いたところ、マイノリティとして生きることは社会全体に対して大きな影響を与えるそうです。だからこそ、ジャマイカに良い影響を与え、日本の魅力を広められるような活動を目指していきたいと思います。

今回は、半年が経過したタイミングで、自分の考えを整理するために「ジャマイカで学んだこと」を文字に起こしてみました。改めて振り返ると、ジャマイカでの学びは数え切れないほどあり、毎日が新しい発見の連続です。ときにはスリルもありますが、それも含めて貴重な経験だと感じています。現在も、世界のどこかで JICA 隊員はそれぞれの任地で成長を続けていることでしょう。私も引き続き、ジャマイカでの生活を安全に、そして健康に楽しみたいと思います。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。次回は、ジャマイカから見た「日本」について紹介したいと思います。それでは、リックルモア！（またね！）